

## 安全データシート

整理番号：MG-HOSPI-3B

作成：2006/12/13

改訂：2016/11/28

製品名：ホスピノーズ

## 1. 製品及び会社情報

製品名：ホスピノーズ  
 供給者の会社名称：コニカミノルタ株式会社  
 住所：〒100-7015 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号  
 担当部門：ヘルスケア事業本部 品質保証統括部  
 〒191-8511 東京都日野市さくら町1番地  
 (TEL:042-589-8421, FAX:042-589-8066)  
 作成部門：環境経営・品質推進部  
 (TEL:042-660-9409, FAX:042-660-9417)  
 緊急連絡先：公益財団法人 日本中毒情報センター  
 (事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る)  
 中毒110番 一般市民専用電話  
 (大阪) 072-727-2499(情報料無料) 365日 24時間対応  
 (つくば) 029-852-9999(情報料無料) 365日 9時～21時対応  
 推奨用途：病院専用強力消臭剤 (アルミ缶入りエアゾールスプレー)

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類	区分
エアゾール	区分2
引火性液体	区分4
急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	区分外
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	区分2A
生殖細胞変異原性	区分1B
生殖毒性	区分1A
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2
水生環境有害性(急性)	区分外
水生環境有害性(長期間)	区分外

## GHSラベル要素

絵表示：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

可燃性又は引火性の高いエアゾール  
 高压容器：熱すると破裂のおそれ  
 可燃性液体  
 強い眼刺激  
 遺伝性疾患のおそれ  
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
 眠気およびめまいのおそれ  
 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(肝臓, 中枢神経系)の障害のおそれ

## 安全データシート

整理番号：MG-HOSPI-3B

作成：2006/12/13

改訂：2016/11/28

製品名：ホスピノーズ

## 注意書き：

予防策：4,7章参照

対応：ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。

保管：日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物（エアゾール製品）  
成分及び濃度又は濃度範囲

成分名称	含有量 wt. %	CAS#	化審法	安衛法		化管法	毒劇法
			官報公示 番号	官報公示 番号	通知物質	指定物質	毒物劇物
水	50-70	7732-18-5	対象外	対象外	非該当	非該当	非該当
ジメチルエーテル	30-40	115-10-6	2-360	化審既存	非該当	非該当	非該当
エタノール	1-10	64-17-5	2-202	化審既存	安衛法通 知物質	非該当	非該当
両性高分子化合物	<1	31132-30-6	6-869	化審既存	非該当	非該当	非該当

## 4. 応急措置

- 吸入した場合：蒸気、ガスを大量に吸い込んだ場合には、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、温かく安静にする。呼吸が不規則か止まっている場合には、人工呼吸を行う。被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師の診断/手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合：付着物を布にて素早くふき取る。皮膚を多量の水と石鹸（又は皮膚用の洗剤）を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しない。汚染された衣類を脱ぐこと。皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
- 眼に入った場合：眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。瞼及び眼球の隅々まで洗眼すること。眼が開けられない場合、無理に開けさせない。眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。できるだけ速やかに、医師の診断/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合：直ちに水で口をすすぎ、コップ1～2杯の水を飲ませる。医師の指示があった場合のみ吐かせる。医師の診察を受ける。意識のない場合は口から何も与えてはならないし、無理に吐かせようとしてはならない。
- 急性症状及び遅発性症状：強い眼刺激  
眠気またはめまいのおそれ  
遺伝性疾患のおそれ  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
長期にわたる反復曝露による腎臓の障害のおそれ

## 安全データシート

整理番号：MG-HOSPI-3B

作成：2006/12/13

改訂：2016/11/28

製品名：ホスピノーズ

最も重要な徴候症状：皮膚に接触した場合、発赤等アレルギー性疾患  
 吸入した場合、咳、頭痛、疲労感、眠気  
 経口摂取した場合、灼熱感、頭痛、錯乱、めまい、意識喪失  
 中枢神経に影響を与えることがある。刺激、頭痛、疲労感、集中力欠如を生じることがある。  
 妊娠中にエタノールを摂取すると胎児に有害影響が及ぶことがある。  
 長期にわたる摂取は、肝硬変を引き起こすことがある。

応急措置をする者の保護：換気を行う。  
 救助者は、状況に応じて適切な保護具（有機溶剤用の防毒マスク等）を着用する。  
 火気及び着火源に注意する。

### 5. 火災時の措置

消火剤：水噴霧、粉末、二酸化炭素、耐アルコール泡  
 使ってはならない消火剤：棒状注水。

特有の危険有害性：火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。  
 破裂した容器が飛翔するおそれがある。  
 燃えやすい、熱、火花、火災で容易に発火する。  
 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。  
 引火性の高いガス、液体及び蒸気。

特有の消火方法：直ちに指定の消火器等を使って消火する。  
 可能であれば、エアゾール容器を火元から遠ざける。  
 可燃性のものを周囲から素早く取り除く。  
 移動不可能の場合は、容器および周囲に散水して冷却する。  
 速やかに避難し、関係者以外は立ち入り禁止とする。  
 消火活動は十分に距離をとって、風上から行う。  
 有毒なガス（CO、NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>等「10. 安全性及び反応性」参照）の吸入を避ける。  
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護：消火作業の際は、空気呼吸器を含め適切な防護服（耐熱性）を着用する。  
 消火活動は十分に距離をとって、風上から行う。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
 保護具及び緊急時措置：保護具を着用する（8章参照）。  
 立ち入り前に換気を行う。  
 全ての着火源を取り除く。  
 密閉された場所に立入る前に換気する。  
 暴露防止の為、作業の際は適切な保護具を着用する。  
 眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。  
 漏れ発生時（噴出時）には風上より処置を行い、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。  
 付近着火源、高温体及び可燃物を素早く取り除き、風下の人を非難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。  
 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしないこと。

環境に対する注意事項：河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。  
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 安全データシート

整理番号： MG-HOSPI-3B

作成： 2006/12/13

改訂： 2016/11/28

製品名： ホスピノーズ

封じ込め及び 浄化の方法及び機材：	少量の場合は、乾燥度、砂、不燃材料で吸収し、或は覆って密閉できる空容器に改修する。後で廃棄処理する。 大量の場合は、盛土で囲って流出を防止し、ポンプで汲み取る。 衝撃・静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。 危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 可能ならば、漏洩している容器を回転（漏出部を上向きに）させ、液体でなく気体が放出するようにする。
二次災害の防止策：	容器を冷却して蒸気を抑え、発生した蒸気雲を分散させるため散水を行う。 すべての発生源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 ガスが拡散するまでその場所を隔離する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策：	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載した設備対策を行い、保護具を着用する。 静電気対策を行い、作業衣、作業靴等は通電性の物を使用する。 静電気対策のため、装置等は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）を使用する。 工具は火花防止型のものを使用する。
局所排気・全体換気：	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具をつけて作業すること。
注意事項：	情報なし。
安全取扱注意事項：	全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。 温度が高くなるところに置くと、容器が破裂する恐れがある。 容器は使用後でも穴を開けたり燃やしたりしないこと。 容器は丁寧に取扱い、衝撃を与えたり、転倒させない。 容器の取り付け、取り外しの作業の際は、漏洩させないように、十分注意する。 漏洩すると、発火、爆発する危険性がある。 火気注意。 内容物を故意に吸い込まないこと。 接触、吸入または飲み込まないこと。 空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。 多量に吸入すると、窒息する危険性がある。 眼や口に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には十分に気をつけること。 換気の良い場所で取り扱うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 曝露防止のため、保護具を着用して作業を行うこと。 取扱後はよく手を洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

## 安全データシート

整理番号：MG-HOSPI-3B

作成：2006/12/13

改訂：2016/11/28

製品名：ホスピノーズ

## 保管

適切な保管条件：

高圧ガス法の規則に従う。  
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
 缶が錆びて破裂する原因になることがあり、湿気の多い場所には保管しないこと。  
 長時間使用しないで置き忘れてたりしないこと。  
 保管場所には危険物を貯蔵し、または取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。  
 日光から遮断し、40℃を超える温度に曝露しないこと。  
 換気の良い場所で保管すること。  
 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。  
 幼児の手の届かないところに保管する。  
 酸化剤、酸素、爆発物、ハロゲン、圧縮空気、酸、塩基、食品化学品等から離して保管すること。  
 保管場所で使用する電気器具類は防爆構造とし、器具類は接地する。  
 その他、消防法、労働安全衛生法等の法令の定めるところに従う。

安全な容器包装材料：

消防法、高圧ガス保安法及び国連輸送法規等で規定されている包装材料を使用する。  
 容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火することがある。

## 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策：

防塵仕様の局所排気装置を設置する。  
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、洗顔器と安全シャワーを設置すること。  
 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。  
 タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。

許容濃度

成分名称	厚生労働省(安衛法)	日本産業衛生学会	ACGIH	
	管理濃度	許容濃度	TLV-TWA	TLV-STEL
水	未設定	未設定	未設定	未設定
ジメチルエーテル	未設定	未設定	未設定	未設定
エタノール	未設定	未設定	未設定	1000ppm
両性高分子化合物	未設定	未設定	未設定	未設定

保護具

呼吸用保護具：

局所排気または自動排気を使用する。保護マスクはこれらの排気が不可能な場合使用する。

手の保護具：

有機ガス用防毒マスク、（密閉された場所では）送気マスク。  
 耐薬品性・不浸透性（クロロプレンラバー、塩ビ、NBR製）の手袋を着用すること。

眼の保護具：

サイドにシールドの付いた安全眼鏡またはケミカルゴーグルを着用すること。

皮膚及び身体の保護具：

肌への付着を避ける為の保護衣（長袖、不浸透性、通電性）、通電性の靴、前掛け（耐溶剤性）等を行うこと。

適切な衛生対策：

取扱い後はよく手を洗うこと。  
 作業中は、飲食または喫煙をしないこと。

## 安全データシート

整理番号：MG-HOSPI-3B

作成：2006/12/13

改訂：2016/11/28

製品名：ホスピノーズ

## 9. 物理的及び化学的性質

(\*) 内容液

製品

物理的状態：	液体
形状：	溶液
色：	無色透明
臭い：	微エタノール臭
臭いのしきい（閾）値：	データなし
pH：	(*)6.7-7.6
融点・凝固点：	データなし
沸点、初留点 及び沸騰範囲：	データなし
引火点：	データなし
自然発火温度：	データなし
燃焼の又は爆発範囲：	データなし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度：	データなし
蒸発速度：	データなし
比重（密度）：	(*)0.94
溶解度：	(*)水とは任意の割合で混ざる
n-オクタノール／水 分配係数：	データなし
分解温度：	データなし
粘度	データなし
動粘度：	データなし

## 10. 安定性及び反応性

化学的安定性：	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定である。 40℃以上になると破裂のおそれがある。 静電気が発生すると引火爆発の危険性がある。 高温の表面、火花または裸火により発火する。
危険有害反応可能性：	高压ガスが入っている。（常用温度で缶内圧は約0.42MPa） 加熱、衝撃等により、破裂する危険がある。 可燃性の液化ガスであり、空気と爆発性の混合ガスを形成しやすい。 社内で放出すると窒息性及び酸欠になることがあるので、使用後は換気を十分に行うこと。 なお換気の際には、周囲に着火源のないことを確認すること。 光や空気の影響で爆発性過酸化物を生成することがある。 強酸・強塩基や強い酸化剤と反応して有毒なガスを発生することがある。
避けるべき条件：	裸火、火花、喫煙。 高温多湿な場所での保管及び火気（火炎、スパーク等着火源）の近くでの使用。 衝突を避ける。 直射日光を避ける。 静電気との接触、混触危険物質との接触を避ける。
混触危険物質：	水酸化アルミニウム、水酸化アルミニウムリチウム、水と反応する物質。 強酸化剤、強酸、強塩基等。
危険有害な分解生成物：	燃焼等により有毒なガス（一酸化炭素、二酸化炭素、NO <sub>x</sub> 等）を発生する。 蒸気及びガスは引火して爆発する恐れがある。

## 安全データシート

整理番号：MG-HOSPI-3B

作成：2006/12/13

改訂：2016/11/28

製品名：ホスピノーズ

## 1.1. 有害性情報

製品

データなし

成分

ジメチルエーテル

急性毒性（吸入）： LC50: 164000 ppm[ラット]  
 眼に対する重篤な損傷性  
 又は眼刺激性： Mild [ウサギ]

エタノール

急性毒性（経口）： LD50: 7060 mg/kg[ラット], LD50: 13000 mg/kg[ラット],  
 LD50: 3450 mg/kg[マウス], LDLo: 1400 mg/kg[ヒト]  
 急性毒性（経皮）： LDLo: 20000 mg/kg[ウサギ]  
 急性毒性（吸入）： LC50: 39 gm/m<sup>3</sup>/4H[マウス]  
 眼に対する重篤な損傷性  
 又は眼刺激性： Moderate [ウサギ]

両性高分子化合物

急性毒性（経口）： LD50: > 16000 mg/kg[ラット]  
 急性毒性（経皮）： LD50: > 5000 mg/kg[ラット]  
 皮膚腐食性及び皮膚刺激性： None [ウサギ]  
 眼に対する重篤な損傷性  
 又は眼刺激性： None [ウサギ]

## 1.2. 環境影響情報

製品

データなし

成分

ジメチルエーテル

生態毒性

急性毒性（魚類）： 96hLC50: > 4000 mg/L[グッピー]  
 急性毒性（甲殻類）： 48hEC50: > 4000 mg/L[オオミジンコ]  
 残留性・分解性： 難分解性  
 生体蓄積性： 蓄積性がない又は低いと判断される化学物質  
 （既存化学物質安全性点検）

エタノール

生態毒性

急性毒性（魚類）： 96hLC50: > 100 mg/L[ファットヘッドミノー]  
 急性毒性（甲殻類）： 48hLC50: > 5464 mg/L[オオミジンコ]  
 残留性・分解性： 良分解性

両性高分子化合物

生態毒性

急性毒性（魚類）： 48hLC50: > 17500 mg/L[ヒメダカ],  
 24hLC50: > 50000 mg/L[ヒメダカ]

## 安全データシート

整理番号：MG-HOSPI-3B

作成：2006/12/13

改訂：2016/11/28

製品名：ホスピノーズ

### 1 3. 廃棄上の注意

廃棄方法： 廃棄の前に、ガスを完全に抜くこと。  
中身が出なくなるまで使い切った後でも、破裂する恐れがあるので、そのまま火中に投げないこと。  
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従って分類廃棄すること。  
廃棄物の処理を委託する場合は、処理業者に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。

### 1 4. 輸送上の注意

国連分類 国連分類： クラス2.1  
国連番号： UN1950  
品名（国連輸送名）： エアゾール類（Aerosols）

輸送の特定の安全対策及び条件： “7章 取扱い及び保管上の注意” の記載による。

輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針（ERG）番号： 126

### 1 5. 適用法令

消防法： 非危険物  
毒劇法： 非該当  
安衛法： 名称等を表示すべき有害物， 名称等を通知すべき有害物， 危険物・可燃性のガス  
化審法： 一般化学物質から構成されている  
PRTR法（化管法）： 非該当  
高压ガス保安法： 適用除外（液化ガス、可燃性ガス）  
海洋汚染防止法： 有害液体物質2類物質  
船舶安全法： 危険物（高压ガス）  
航空法： 高压ガス

### 1 6. その他の情報

参考文献等： 化審法の既存化学物質 安全性点検データ集（化学品検査協会）  
国際化学物質安全性カード 日本語版（化学工業日報社）  
環境化学物質要覧（環境庁環境化学物質研究会）  
新版危険・有害性便覧（中央労働災害防止協会）  
RTECS (U.S DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICE)

免責文： 記載内容は現時点で入手できた情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。危険有害性の評価は、今後の新しい知見で改訂されることもあります。また、記載事項は当製品についての通常の取扱いを対象にしており、特別な取扱いや組み合わせの場合は用途・用法に適した安全配慮の上お取扱い願います。